

令和4年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

校訓	「誠の心にしたい信念を貫く」 校訓の「誠の心にしたい信念を貫く」のもとに、実践力のある生徒の育成を図る。		重点目標	(1) 学力の充実を図る。 自ら学習に取り組み、予習・復習の習慣化により学力を充実させる。 通信端末による視聴覚教材を活用し、学習習慣の確立、基礎学力の定着、学習到達度の向上を目指す。 (2) 日々満足できるような充実した生活をする。 自己を大切に、他への思いやりをもつ。 自ら考え、正しく判断し、よりよく表現や行動ができる。 (3) 社会に貢献する態度と能力を養う。 社会人となるにふさわしい人格を形成する。 目標を持って、自らの未来を切り開いていく。	学校法人 誠恵学院 誠恵高等学校 校長 飯島 修	
	学校教育目標	未来を広げる高い学力・・・教科学習の充実、学力向上。 意欲に満ちた輝く生徒・・・自ら学ぶ力、思考力、判断力、表現力を高める。			総合評価	(評価) B (評価文) 新学習指導要領の導入に伴い、教育課程を大きく変更したため、戸惑いもあったが、まずは生徒が楽しく学校に通えることに重点を置いて教育活動を進めることができた。その結果、本年も定員を大きく上回る志願者を獲得することができた。今後も安心・安全・平和な学校として、生徒から高い満足度の評価を得られる学校づくりに努めたい。
重点目標		I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価
1. 学力の充実を図る	①自ら学習に取り組み、予習・復習の習慣化に力を入れる。学力の定着と学習意欲の高揚を図る。	予習・復習の習慣化、学力の定着化を図るための手立ては（小テスト等）適切であったか。	B	Monoxer を活用して予習・復習に取り組みさせた。重要事項をまとめ、小テストを実施したことにより、学力の定着化を図ることができた。その結果、定期試験で高得点を目指して自主学習に励む生徒が増加するなど、学習意欲が高揚した。	A	自ら目標を定めて学習に取り組む生徒が増えている。今後は調べ学習を中心とした探究学習による予習など、更に意欲的に取り組める工夫をすると良い。
	②充実した指導計画のもとに教科指導を行い、多読、繰り返し学習などにより、「わかりやすく」「魅力ある」学習を展開する。	多読や繰り返し学習、また、「わかりやすく」「魅力ある」授業を行うことができたか。	A	画像資料や具体的な例を提示することで、わかりやすい授業となるよう心掛けた。また、生徒から「楽しく学べた」という評価を得られているように、魅力ある授業を実践することができた。	A	Monoxer や授業のレジュメを充実させることで、生徒が繰り返し学習に取り組める環境が整えられている。
	③補助教材として「スタディサプリ」・「Monoxer」を活用し、自学自習による学力の向上を目指す。	「スタディサプリ」・「Monoxer」を活用した学習に目標を持たせ、意欲的に取り組ませることによって、基礎学力を向上させることができたか。	B	昼学習の時間や家庭学習で活用するように働きかけた。生徒も実践し、基礎学力の向上が見られた。しかし自主性に乏しく、各定期試験前の活用に留まる傾向にあったため、今後は計画的・継続的な活用方法を構築したい。	A	不登校や長欠の経験から、基礎が抜け落ち、学び直しが必要な生徒への補助教材として有効である。今後は、上の学年の内容（先取り学習）や予習での活用など、新たな活用法へのアプローチが期待される。
	④目的意識を持って学習に参加できるようにする。漢字検定、英語検定、数学検定及び情報各種検定、その他検定試験に挑戦し、資格取得者を増やす。	目標を持って選択教科の学習に取り組ませ、興味・関心・意欲等を高め、成果を上げることができたか。	B	検定取得の意義を生徒に伝えることで、挑戦する気持ちを抱かせることができた。しかし、英語検定・情報各種検定に受験者が集中し、その他の検定を希望する生徒が少なかった。	B	資格取得に向け、個々への対応は丁寧にできているが、全体の向上心の醸成には至っていないように見える。ICT を有効活用し、興味・関心をより高める方策が今後望まれる。

重点目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学力の充実を図る	⑤個に応じた指導、習熟度等に対応した授業の工夫・改善により、分かりやすい授業を行う。	校内研修や各教科部会等での研修を通して、学習指導法の改善に努めることができたか。	B	新教育課程への移行に合わせ、評価方法や指導法を変更する必要があったため、授業での成功例や失敗例を共有しながら自らの学習指導を改善することができた。しかし、意見交換の機会が各定期試験制作時に留まっていたため、定期的な教科研修の機会を設ける必要がある。	B	全体での指導研修の機会は定期的に十分な時間確保されているが、教科では成績会議や各定期試験制作時の意見交換程度で、研修の機会が乏しく感じる。具体的且つ即効性のあるスキル上達につながる教科研修が必要である。
2. 日々の生活の充実を図る	①自己を大切にし、他人への思いやりを持った責任ある行動をとる。生徒との意見交換を通して、生徒を育てる。自らの意志と責任で行動できるようにする。	全教育活動を通して個に応じた指導を進め、また、カウンセリングマインドで生徒に接し、生徒の心を育てる教育が実践できたか。	A	生徒が相談しやすい環境づくりに努め、カウンセリングマインドで指導に当たることができた。またその際、材料を与えて判断させる流れをつくり、生徒に取るべき行動を考えさせることで自主性・自立性を育むことができた。	A	日常会話・各行事・進路指導など様々な場面で、生徒との意見交換がよくなされている。傾聴に心がけ、生徒が前向きに生活できるような声掛けが随所に見られる。
	②生徒の良い点を伸ばし、改めるべきことは改めさせてやる気を育てる。	生徒ひとりひとりに改めるべきことを自覚させ、良さを見出し、意欲の向上につなげることができたか。	A	生徒が客観的に自己評価や自己肯定感を得られるように、折に触れて行事や生活の振り返り指導を行った。その際、改善点に関して、改善方法のアドバイスを適宜した。	B	自分の良い部分を自覚できるように、小さな善行もその場で褒める動きがとられている。短所や改めるべき部分は、本人の考えを一度引き出してから、違う視点を与えることで、納得して改善するような指導がなされている。
	③挨拶・言葉遣い・服装等を正し、遅刻・欠席の防止、清掃の指導を徹底する。教職員は倫理を重んじ、自己試練を含め厳格なる手本を示し、生徒の範となるよう努める。	教師として厳粛なる倫理観のもと生徒に範を示し、遅刻・欠席を減らす指導や、適切な挨拶、言葉遣い、服装等の生活指導を、厳しくまた温かく進めることができたか。	B	否定的な発言を避け、生徒の健康状態や精神面に配慮しながら、礼節の重要性や時間を厳守することの大切さを伝えるよう心掛けた。しかし、継続した指導が必要となる場面が多く、即改善とはいかなかった。	B	家庭訪問や面談を適切に行うなど、遅刻・欠席を減らす指導が丁寧に行われている。また、挨拶や言葉遣い、服装の指導も、日常の至る部分で徹底されている
	④社会に出て認められる人間になるよう自らを伸ばし、他とともに切磋琢磨する。社会貢献の気持ちを育てる。	授業・諸活動の体験等を通して、ボランティア精神や社会貢献の気持ちを高めることができたか。	B	進路指導の一環として、ボランティア活動に参加し、視野を広げるように呼び掛けた。また各委員会活動を通して、他人のために行動する意義を伝え、社会貢献の気持ちを育むことができた。	B	コロナ禍で中止されていた沼津御用邸記念公園での奉仕活動が再開され、皆、額に汗しながら熱心に清掃を行っていた。ボランティア精神や社会貢献の気持ちが高められている。
	⑤生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談を徹底し、生徒の指導すべき点は同一歩調で対応し、その場で正し、職員の連携を図る。細心の注意をもって生徒・保護者との信頼関係の構築に努める。	生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談・記録を適切に行い、保護者との連携のもと全校体制での対応ができたか。	A	生徒指導をする際、口頭だけでなく、レポートを作成することで報告・連絡・相談・記録を徹底することができた。保護者との連携に関しても、面談や電話連絡はもちろんのこと、スタディサプリ for PARENTS などを活用して適切に行うことができた。	A	多様なニーズに応えながらも、学校として譲れない部分は面談や家庭訪問など、対話を通して理解を求めると、生徒・保護者との信頼関係の構築に努めて指導している。

重点 目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
3. 社会に貢献する態度と能力を育てる	①社会人となるにふさわしい健康管理を身につける。	生徒自らが進んで規律正しい生活、健康の保持・増進等に努めることができる指導を適切に行い、その成果をあげることができたか。	B	毎日健康観察票を提出させ、こまめな手指消毒・換気呼びかけるなど、COVID-19の感染対策に努めることができた。また、規則正しい生活ができるよう、連休前後や長期休業前の指導を、生徒課や生活委員主導のもと徹底できた。	A	行楽シーズンなど、世間でコロナ陽性者が増加する中、外出を控える指導が功を奏し、校内感染を抑えることができていた。
	②目標を持って自らの未来を切り拓いていく。	個性に応じて進路が決定できるようにするため、一般的な教養を高め、専門的な技能の習得に努めさせることができたか。	B	総合的な探究の時間を活用し、自身の個性を自覚させ、それに応じた進路決定に必要な教養や技術を明確にすることはできたが、すべての生徒に習得に向けた努力をさせるには至らなかった。	A	進学・就職イベントを企業と共同で企画し、実施するなど、全校体制で進路決定への動きがとられている。また、ICTを活用し、進路決定に必要な能力の習得が図られている。
	③「社会に必要とされる人材の条件」を理解させ、人生を豊かにできるよう指導する。進路指導計画の充実を図り、保護者・生徒との相談に応ずる。	進路指導を計画的に進め、資料提供や進路相談を適切に行い、進学・就職指導に留まらず生き方指導につなげることができたか。	A	昼休みや放課後、長期休業を利用して二者面談・三者面談を行い、進路実現に向けたビジョンの共有が担任主導のもと計画的に実行できた。その際、進学・就職に限らず、過去のデータなどを用いることで、より具体的な指導を行うことができた。	A	新学習指導要領に合わせた教育課程の変更により、2年次からコース選択をするかたちになったため、1年次より進路指導が計画的に進められている。
	④進学コース、普通コースの指導を充実させ、国立大学、有名私立大学への進学を増やす。	進学希望者への学習支援を行い、学習環境を整え、受験への対応ができる指導を進め、成果を上げることができたか。	A	希望する生徒には放課後や長期休業を利用して特別授業を行うなど、全体でバックアップすることができた。その結果、国公立・難関私大の合格者を輩出するなど、成果を上げることができた。	A	図書室に学習スペースを設けるなど、学習環境がよく整えられている。また、教員と生徒の関係が良好で、個別指導を依頼しやすい雰囲気作りができています。そういった環境から、本年度は多くの有名私大合格者を出すことができた。
	⑤就職指導では、企業訪問など本校の実績を更に高めるよう努力する。	就職希望者の求職意欲を高め、企業訪問を実施し、就職内定率を高めることができたか。	B	企業訪問を適切に行い、企業が求める人物像をしっかりと把握したうえで、履歴書指導や面接指導を徹底することができた。その結果、本年度も就職希望者の内定率を高く保つことができた。	A	コロナ禍で、業種によっては斡旋が難しい中、生徒のニーズに応え、粘り強く進路開拓を行うなどの就職指導が為されていた。